

# 理 科

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	理科 307 407 507 607	A 4 752	令和5年
4	大日本図書	大日本◆	理科 308 408 508 608	A 4 864	
11	学校図書	学 図◆	理科 309 409 509 609	A B 828	
17	教育出版	教 出◆	理科 310 410 510 610	A 4変型 860	
26	信州教育出版社	信 教◆	理科 311 411 511 611	A B 700	
61	新興出版社 啓林館	啓林館◆	理科 312 412 512 612	A B 804	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

## 理科

### 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
24冊	東書、大日本、学図、教出、信教、啓林館

### 2 東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の教育課程

#### 【教育課程編成の基本方針】

「次代を担う児童・生徒一人一人の資質や能力を最大限に伸ばさせるとともに、豊かな国際感覚を養い、世界で活躍し貢献できる人間を育成する。」という教育理念を踏まえ、小学校から中等教育学校までの12年間を一体として捉え、児童・生徒の発達等に応じて柔軟な教育課程を編成する。

#### 【理科における学習指導の展開】

- (1) 自然に親しみ、自然の事物や現象について体験や探究的な学びを通して理解し、観察、実験などに関する技能を身に付けさせる。
- (2) 自然の事物・現象を多面的に捉えて問題を見だし、予想や仮説を基に観察、実験などを行って、実証性、再現性、客観性などの条件を検討する手続きを重視しながら、自分の考えをより科学的に変容させ、問題解決をする力や科学的な思考力を高めることができるように指導する。
- (3) 自然環境と人間の共生の手立てを考えながら自然を見直したり、実験などを通して自然の秩序や規則性などに気付いたりして、他者と関わりながら問題を追究し、主体的に解決しようとすることができるよう指導する。

### 3 教科書の調査研究

内容（調査結果は「別紙」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠
a 自ら課題を設定する力の育成につながる問題の扱い	都立小中高一貫教育校教育内容等検討委員会報告書 第2章 令和5年度都立立川国際中等教育学校附属小学校教育課程に係る基本方針
b 日本の自然の扱い	同上
c 環境保全に関わる内容の扱い	同上

※調査研究項目を設定した理由

- a 「令和5年度都立立川国際中等教育学校附属小学校教育課程に係る基本方針」（以下、「基本方針」という。）「1（2）教育方針」の一つとして「自ら課題を認識し、論理的に考え、判断し、行動できる力を育てる。」としている。また、「3（2）各段階で育てたい力」では第1学年～第6学年（小学校）の育てたい力の一つとして「体験から課題を見いだす力」が示されている。このことから、自ら課題を設定する力の育成につながる問題（課題）がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- b 基本方針の「1（2）教育方針」の一つとして「日本の伝統・文化を理解し尊重するとともに、多様な価値観を受容し、主体的に国際社会に参画する力を育てる。」としている。このことから、地名とともに日本の自然がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- c 理科における学習指導の展開(3)では、「自然環境と人間の共生の手立てを考えながら自然を見直したり、実験などをおして自然の秩序や規則性などに気付いたりして、他者と関わりながら問題を追究し、主体的に解決しようとするができるよう指導する。」としている。このことから、環境保全に関わる内容がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。

発行者の番号 略 称		学年	2 東書	4 大日本	11 学図
内 容	a 自ら課題を設定する力の育成につながる問題（課題）の扱い	第三学年	「春の生き物」の単元では、「春の生き物をさがしてみよう。」「じしゃくのせいしつ」の単元では、「いろいろな物に、じしゃくを近づけてみよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「しぜんのかんさつ」の単元では、「校庭で植物や動物などの生きものをさがして、そのすがたをよく見てみましょう。」「じしゃくのふしぎ」の単元では、「じしゃくを身の回りのものに近づけてみましょう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「しぜんのかんさつ」の単元では、「どのようなところに、どのような生き物が見られるでしょうか。」「じしゃくのひみつ」の単元では、「身の回りのものに、磁石を近づけて調べてみましょう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
		第四学年	「雨水のゆくえと地面のようす」の単元では、「雨の日の校庭を、じっくり見てみよう。」「とじこめた空気と水」の単元では、「空気をとじこめて、おしてみよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「雨水のゆくえ」の単元では、「校庭など、雨がふった場所のようすを見てみましょう。」「とじこめた空気や水」の単元では、「空気をふくろにとじこめ、おしてみ、気づいたことを話し合ひましょう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「雨水の流れ」の単元では、「雨などの水の流れるようすや地面へのしみこみ方などについて、これまでにはけい験したことや学んだことをもとに予想し、調べていきます。」「空気と水」の単元では、「空気や水をおすと、それらの体積や手ごたえはどうなるでしょうか。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
		第五学年	「流れる水のはたらき」の単元では、「同じ川の2まいの写真を見てみよう。」「物のとけ方」の単元では、「食塩を水につけて、じっくり見てみよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「流れる水のはたらきと土地の変化」の単元では、「ふだんの川はおだやかに流れていますが、大雨がふった後、川の流れやその周りの土地のようすが変化します。写真を見て気づいたことを話し合ひ、問題を見つけましょう。」「もののとけ方」の単元では、「食塩を水にとかして、気づいたことを話し合ひましょう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「流れる水のはたらき」の単元では、「川や川岸のようすは、場所によってちがいがあります。川や川岸のようすは、どのようなちがいがあのでしょうか。」「もののとけ方」の単元では、「食塩を水に入れると、やがてとけて見えなくなります。食塩はなくなってしまったのでしょうか。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
		第六学年	「物の燃え方と空気」の単元では、「物を燃やしてみよう。」「大地のつくり」の単元では、「地面の下は、どうなっているのかな。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「ものの燃え方」の単元では、「ものを燃やした経験や、写真のろうそくが燃えるようすについて気づいたことを話し合ひましょう。」「土地のつくりと変化」の単元では、「がけのようすについて気づいたことを話し合ひ、問題を見つけましょう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「ものの燃え方と空気」の単元では、「キャンプで、まきを燃やして料理を作ったり、キャンプファイアをしたりすることがあります。ものを燃やし続けるには、どのようにすればよいでしょうか。」「大地のつくりと変化」の単元では、「私たちがふだん見る機会の少ない地面の下のようすを、いろいろな手がかりをもとに調べ、大地のでき方について考えていきましょう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
c 環境保全に関わる内容の扱い	b 日本の自然の扱い	第三学年から第六学年まで	6年「変わり続ける大地」の単元では、コラム「ジオパークへ行こう！」で「ユネスコ世界ジオパーク」を紹介しており、知夫赤壁（隠岐ジオパーク）、龍石海岸（島原半島ジオパーク）、旭滝（伊豆半島ジオパーク）など、文と写真を掲載している。	3～6年の裏表紙では、「ジオパーク」を紹介しており、小天桥（京都府）、芦ノ湖（神奈川県）、姫島（大分県）、原尻の滝（大分県）などの写真を掲載している。	6年「火山の噴火と地震」の単元では、コラム「ジオパークに行ってみよう」で「日本ジオパーク」、「ユネスコ世界ジオパーク」を紹介しており、海底の火山からふん出したよう岩からなる地形（青森県八戸市）、火山灰が固まってきた岩石からなる地形（青森県佐井村）などについての文と写真を掲載している。
		第三学年から第六学年まで	3年「こん虫のかんさつ」の単元では、「トンボやバッタなどを持つときは、からだやはねを、そっとつかむよう」にしましょう。また、かんさつしたら、もとの場所に放しましょう。」「6年「水溶液の性質とはたらき」の単元では、「実験に使った水溶液は、流し場にすてずに、決められた入れ物に集める。」など、環境保全につながる記載がある。	3年「こん虫の育ち方」の単元では、「生きものをかんさつするときは、きずつけないようにいねいにあつかう。」「6年「水よう液の性質」の単元では、「薬品は、先生の指示に従って、決められたところに集める。」など、環境保全につながる記載がある。	3年「こん虫を調べよう」の単元では、「石などを動かしたら、もとにもどしておきましょう。」「こん虫を野外に放すときには、とってきた場所がいいに放しません。」「6年「水溶液の性質」の単元では、「残った薬品は、決められたところへ集めます。」など、環境保全につながる記載がある。

発行者の番号 略 称		学年	17 教出	26 信教	61 啓林館
内 容	a 自ら課題を設定する力の育成につ ながる問題（課題）の扱い	第三学年	「生き物を調べよう」の単元では、「じっさいにタンポポなどの植物をくわしく見て、どのようなすがたをしているかをたしかめましよう。」「じしゃく」の単元では、「じしゃくを鉄のクリップや竹のもののさしに近づけましよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「身近なしぜんのかんさつ」の単元では、「学校のまわりをたんけんして、どんな植物や動物が見られるか、さがしてみましよう。」「じしゃくのせいしつ」の単元では、「いろいろなものにじしゃくを近づけてみまよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「生き物をさがそう」の単元では、「校庭や野原に出かけて、生き物をさがしてみましよう。」「じしゃくのふしぎ」の単元では、「いろいろなものに、じしゃくを近づけてみまよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
		第四学年	「雨水と地面」の単元では、「運動場の土とすな場のすなに水を注いで、ちがいをくらべましよう。」「とじこめた空気や水」の単元では、「空気であらうに空気や水をとじこめて、玉を飛ばしましよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「雨水のゆくえ」の単元では、「雨の日に、校庭やすな場、学校のまわりなどでふった雨水の様子を観察ましよう。」「とじこめた空気と水のせいしつ」の単元では、「とじこめた空気や水をおしてみまよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「地面を流れる水のゆくえ」の単元では、「雨がふると、地面に川のような水の流れや水たまりができるのはどうしてかな。」「とじこめた空気や水」の単元では、「空気であらうの玉を飛ばして、気づいたことを話し合ってみまよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
		第五学年	「流れる水と土地」の単元では、「川の上流と下流の様子を写真などで比べましよう。」「もののとけ方」の単元では、「食塩やミョウバンを水にとかしてみましよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「流れる水のはたらき」の単元では、「雨がたくさんふると、雨水が地面を流れたり、川の水かさが増えて、にごった水がはげしく流れたりまします。地面を流れる水や川の水などには、どのようなはたらきがあるのでしょうか。」「もののとけ方」の単元では、「食塩とミョウバンをそれぞれ水に入れて、とけていく様子を見てみまよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「流れる水のはたらき」の単元では、「雨が強くなると、流れる水がにごってまきました。なぜ、水がにごって見えるのでしょうか。」「もののとけ方」の単元では、「食塩のつぶを水に入れると、どうなりましたか。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
		第六学年	「ものの燃え方と空気」の単元では、「底のある集気びんの中の空気がなくなってしまうかを確認ましよう。」「土地のつくり」の単元では、「写真を見て、土地に地層が見られるのはどうしてかを考えましよう。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「ものの燃え方と空気」の単元では、「2つのびんに火のついたろうそくを入れ、一方のびんにはふたをして、燃え方を比べてみまよう。」「大地のつくりと変化」の単元では、「わたしたちは、土地の上に建物を建てたり田畑をつくったりして生活してまします。大地は、どんなつくりになっているのでしょうか。また、どのようにして、できてきたのでしょうか。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。	「ものが燃えるしくみ」の単元では、「キャンドルランタンには、ろうそくが燃え続けるためのどんなくふうがあるのだろうか。」「大地のつくりと変化」の単元では、「大地の中のようすを見ることができるところでは、しま模様に見えるところがあります。わたしたちが生活している地面の下を調べると、どんなことがわかるのでしょうか。」など、問題（課題）の設定につながる記載がある。
b	日本の自然の扱い	第三学年から 第六学年まで	6年「人の生活と自然環境」の単元では、世界自然遺産を紹介しており、知床（北海道羅臼町）、白神山地（秋田県藤里町）、小笠原（東京都小笠原村）などについて文と写真を掲載してまいる。	6年「大地のつくりと変化」の単元では、土地のようすの説明で、しま模様は横に長く続く地層（千葉県銚子市）、火山灰などによってできた地層（長野県諏訪群原村）などについて文と写真を掲載してまいる。	6年「大地のつくりと変化」の単元では、「日本ジオパーク」、「ユネスコ世界ジオパーク」を紹介しており、山がくずれ落ちてできた九十九島（島原半島）、雨水や地下水がつくり出した洞窟（Mine 秋吉台）などについて文と写真を掲載してまいる。
		第三学年から 第六学年まで	3年「こん虫の世界」の単元では、「バッタやトンポを持つ場合は、むねかいはねの部分をやさしくつかむまようにする。」、6年「水溶液」の単元では、「使い終わった水溶液を決められた容器に分けて集める。」など、環境保全につながる記載がある。	3年「こん虫のからだを調べよう」の単元では、「かんさつが終わったら野外へはなす。」、6年「水よう液の性質」の単元では、「調べ終わった水よう液は、先生の指示に従って片づける。」など、環境保全につながる記載がある。	3年「こん虫のかんさつ」の単元では、「つかまえたこん虫は、もとの場所に返す。」、6年「水よう液の性質」の単元では、「薬品を決められた容器に集めるなど、先生の指示に従う。」「実験後の水よう液は水道に流さずに、先生の指示に従う。」など、環境保全につながる記載がある。
c	環境保全に関わる内容の扱い	第三学年から 第六学年まで	3年「こん虫の世界」の単元では、「バッタやトンポを持つ場合は、むねかいはねの部分をやさしくつかむまようにする。」、6年「水溶液」の単元では、「使い終わった水溶液を決められた容器に分けて集める。」など、環境保全につながる記載がある。	3年「こん虫のからだを調べよう」の単元では、「かんさつが終わったら野外へはなす。」、6年「水よう液の性質」の単元では、「調べ終わった水よう液は、先生の指示に従って片づける。」など、環境保全につながる記載がある。	3年「こん虫のかんさつ」の単元では、「つかまえたこん虫は、もとの場所に返す。」、6年「水よう液の性質」の単元では、「薬品を決められた容器に集めるなど、先生の指示に従う。」「実験後の水よう液は水道に流さずに、先生の指示に従う。」など、環境保全につながる記載がある。

